

誰もが誰かのサンタになれる。



H₂O サンタ

チャリティー活動報告



居場所

「何でいっしょに遊ばなあかんねん！」

先日、私がこども食堂のお手伝いに行った時のことです。年齢も暮らしの背景も異なるこどもたちやその保護者と賑わう中、小学3年生くらいの男の子に「一緒に遊ぼう」と声をかけると、彼はそう言って、私が渡した折り紙飛行機を握りつぶしてしまいました。もう一度、違う形の飛行機を渡すと、今度は破り捨てて走って行ってしまいました。しばらくして、私が他の子と遊んでいると先ほどの男の子が後ろから近づいてきて、破り捨てて床に落ちていた飛行機をそっと自分のポケットにしまい、全力で走って行ってしまいました。

あるこども食堂の方に聞いたことがあります。「こども食堂を始めたころ、ちょっと注意すると『うるさい、ババア!』と言われてびっくりしたけれど、今ではそんな言葉が『おばちゃん助けて!』のSOSに聞こえるんです。こどもが暴言を吐くのは、家庭で色々なことが起こっているからかもしれない。こども食堂で全部解決できるわけではないけれど、何かが変わるきっかけになるかもしれないし、自分がやりたいからやっているだけなんです。」とおっしゃいました。

最近のこども食堂は、幼子連れのママや小中学生、年配の方々まで、幅広い世代の地域の人々が集まります。ボランティアの中には、かつてそこに通っていたこどもが大学生や社会人に成長してお手伝いをしている人もいます。また、「仕事帰りにここでお手伝いをしてると落ち着くんです」と、ずっとお皿を洗っているボランティアの方は実はこどもと接することが苦手。

こどもたちを支える方法は人それぞれです。誰かを支えているつもりが、いつしかそこが自分の大切な居場所となり、自分がそこで支えられているかもしれません。

H2Oサンタの合言葉は「誰もが誰かのサンタになれる。」
ご近所のこども食堂を一度のぞいてみませんか？



一般財団法人H2Oサンタ
事務局長 外間孝次

地域社会にチャリティーの文化を創造するために。

7月17日(水)に日頃よりH2Oサンタの活動を支えてくださっている賛助会員のみなさまに向け、1年間の活動報告を行いました。



『一般財団法人H2Oサンタ 2023年度活動報告会』は、阪急うめだ本店9階にある阪急うめだホールにて行い、80社107名の賛助会員のみなさまにご参加いただきました。

まずはじめに代表理事の荒木より、令和6年能登半島地震で被災されたみなさまにお見舞いを申し上げるとともに、H2Oサンタの災害支援活動として約250のH2Oリテイリンググループの店舗に募金箱を設置して寄付を募り、お客さまからの募金にグループ各社の拠出金を加え、総額約3,150万円を災害支援金として寄付したことをご報告いたしました。

その後、事務局長の外間より社会貢献団体と一般の方々をつなぐH2Oサンタの役割や、社会貢献団体が抱える課題についてお伝えし、2023年度の決算報告や活動報告をさせていただきました。

2023年度は賛助会員のみなさまにH2Oサンタ活動へご参加いただく機会が大幅に増加しました。ボランティアとして参加いただきましたアクセンチュア株式会社やサントリー株式会社の従業員の方々にご登壇いただき、「人生初のボランティア参加で“気分がいい”と感じました」といったコメントをいただきました。





また、2023年度は社内外での広報活動をより一層強化しました。初出展の「Kobe Love Port・みなとまつり2023」では、神戸にゆかりのある子ども支援団体をご紹介。こどもの職業体験イベント「みらいのたからばこ2023 in 大阪」では、クイズを通じて社会貢献団体の活動をお伝えし、子どもたちに職業選択のひとつとして社会貢献団体を考えてもらう機会となりました。ほかにもFM大阪「こどもてらす～To Zero for Children～」では、多くの方に子どもたちの現状や支援団体の現場の声をお伝えする貴重な機会となりました。

認定NPO法人全国子ども食堂支援センター・むすびえ 理事長 湯浅 誠氏をお迎えして行われた基調講演『子ども食堂と地域のつながり』では、誤解されがちな子ども食堂の役割や、地域社会の未来についてお話いただき、参加者からは「子ども食堂の認識が大きく変わりました」「子ども食堂の概念を初めて知り、とても身近に感じました」との感想をいただきました。講演内容は次ページ以降でご紹介しております。

常務理事の林は湯浅氏の講演を拝聴し、子ども食堂の実態について理解が深まったことや、企業として、個人として取り組める子ども支援のカタチを考えるきっかけにつなげていきたいとの思いを述べました。また、最後に改めて賛助会員のみなさまへの感謝の意を示し、今後もH2Oサンタの子ども支援の取り組みが有益なものとなるよう努めることを誓い、閉会いたしました。



基調講演『子ども食堂と地域のつながり』

認定NPO法人全国子ども食堂支援センター・むすびえ 理事長 湯浅 誠さん



子どもからお年寄りまで、多様な世代が利用する子ども食堂。2023年時点で全国に9,000か所以上あり、今後小学校の数を超えると予想されています。地域のつながりが希薄化する現代において、子ども食堂が果たす役割と地域へ与える影響をお伝えします。

●地域のつながりを育む場所

現在、少子化の影響で小学校や中学校の数が減少しています。その一方で、近年増加しているのが「子ども食堂」です。2023年時点で全国に9,132か所あり、このペースで増え続けると2020年代のうちに小学校の数を上回ると予想されています。

子ども食堂はその名前から、食事に困っている子どもだけが利用する施設だと誤解されることが多いですが、実際には78.4%が地域コミュニティの拠点として、年齢や所得などの参加条件を設けずに運営されています。子ども専用や生活困窮者に限定している施設は、全体のわずか5%以下に過ぎません。多くの子ども食堂は、子どもやその保護者、高齢者など多世代が気軽に集い、交流できる場所として機能し

ているのです。かつて地域社会のつながりを支えていたのは、子ども会や町内会、商店街での活動でした。それらが衰退し、地域の連帯感を取り戻そうと新たな交流拠点が作られるようになり、そのひとつとして誕生したのが子ども食堂なのです。子ども食堂はこどもの貧困対策にとどまらず、地域住民のつながりを育む場所として、これからの社会に欠かせない存在になりつつあります。

■子ども食堂数の推移



(出典) 認定NPO法人全国子ども食堂支援センター・むすびえ

こどもを中心に多世代が集い 地域の交流拠点となるこども食堂

●地域課題へ包括的にアプローチ

こども食堂に1年以上通うこどもたちは、1年未満のこどもたちと比べ、誰とも仲良くなれる社交性を身につけるとともに、自己認識が向上するというエビデンスがあります。年齢が違うこどもと遊び、親や学校の先生以外の大人と交流することで、社会性を育む貴重な機会となっているのです。また高齢者にとっても良い効果があり、今後高齢者の単身世帯が増加すると予想される中、こどもや地域とつながりを持つことで、張り合いが生まれ、生きがいを持って暮らせるようになります。こどもの貧困や単身世帯の増加といった個々の社会課題に直接対応するのではなく、「一緒に食べる」というコンセプトのもと共助の基盤を築くことで、地域課題を包括的に解決できるのではと考えています。



●多様な事業者との連携

地域の多世代交流の場であるこども食堂を今後さらに増やしていくことが目標ですが、その思いに共感して応援して下さる企業も増えており、例えばイオン株式会社は、2020年にむすびえとともに「イオン こども食堂応援団」を設立しました。イオングループ全店で店頭募金を実施し、こども食堂の運営に必要な資金や支援を届ける活動を行ってくださっています。またSOMPOケア株式会社では、企業が運営する老人ホームや介護施設内でこども食堂の運営を開始し、施設利用者とこどもたちの交流の機会を創出し、施設を地域の多世代交流拠点とすることで、施設利用者の活力アップや、職員の働きがい向上、こどもを取り巻く社会問題の解決などにつなげています。

支え合いの循環が作り出す こども食堂と地域社会の未来

●地域の力でこども食堂を支える

今後のこども食堂の在り方としては民間のリソースを活用し、できる限り自立した運営を目指していくことが重要です。全国に9,132か所あるこども食堂の運営費は年間総額約73億円で、そのうち約10億円が行政からの支援、残りの約63億円は民間の力で集められています。これはこども食堂が持つポテンシャルの高さを示しており、実際に地域住民からこども食堂へ、食料や場所の提供、寄付など、さまざまな支援の手が差し伸べられていることが多いようです。地域の交流拠点が、地域の力によって支えられていく。私はこれを「支え合いの地産地消」と呼んでいます。こういった地域の支え合いの循環が、こども食堂の未来に欠かせない鍵となると確信しています。



●地域の未来を切り拓く存在に

こども食堂の輪が広がれば、SDGsの達成にも貢献できると考えています。地域の「横のつながり」だけでなく、世代を超えた「縦のつながり」を生み出すのがこども食堂です。こどもたちが大人になった時、こども食堂で過ごした時間を思い出し、未来のこどもや地域のために行動するようになるかもしれません。こども食堂は地域社会を育みながら、持続可能な未来へとつなぐ存在でもあるのです。

チャリティーの輪が広がっています。

阪急オアシス、イズミヤ、関西スーパーで初のイベントやNPOフェスティバルなどの恒例イベントを継続し、社会貢献団体と地域のみなさまをつなぎました。

たのしい、かんたん。 チャリティーパーク

地域と社会貢献団体をつなぐ“たのしい、かんたん。H2Oサンタ チャリティーパーク”が食品スーパーやショッピングセンターに初出展しました。

今回、初出展ということもあり、お客様からは「百貨店以外でもH2Oサンタの活動があるんですね。」「阪急阪神百貨店のグループだと知りませんでした。」といったお声や、従業員からは「子どもたちのために何かしたいと思っていたんです。」という声をいただくなど、こども支援の輪を拡大しています。

合計6日間で1,209人、54,599円の募金が集まり、「認定NPO法人日本クリニックラウン協会」「一般社団法人星つむぎの村」「NPO法人しぶたね」「公益財団法人民際センター」の4団体に均等寄付をさせていただきました。

チャリティーパークとは？

NPOクイズやチャリティー缶バッジ作り、おもしろ募金箱などで楽しみながらチャリティーに参加できるスポットです。



イベント開催店のスタッフのみなさんにはH2Oサンタの缶バッジを着用いただきました

レポート：H2Oサンタ事務局 梅田 潔



2025年2・3月も
食品スーパーや
ショッピングセンターで
開催いたします！



阪急OASIS

7月20日(土)・21日(日)
日生中央サビエ 阪急オアシス 日生中央店



Izumiya

7月27日(土)・28日(日)
イズミヤショッピングセンター千里丘



関西スーパー

8月17日(土)・18日(日)
関西スーパー西冠店



第19回 NPOフェスティバル

開催：2024年7月31日(水)～8月5日(月)
会場：阪急うめだ本店 9階 祝祭広場

NPOフェスティバルとは？

世の中にまだ広く知られていない、こども支援に取り組む社会貢献団体の有意義な活動をご紹介します、寄付を募るイベントです。



今夏のNPOフェスティバルは、13の社会貢献団体をご紹介します。会場には25種類の体験メニューをご用意。延べ4,058人のこどもたちに、チャリティーに触れていただきました。

夏休みのこどもたちに様々な体験を提供するHANKYUこどもカレッジと連携し、事前に小学生にアイデアを募集したおもしろ募金箱も実物になって

会場に登場！ その名も『山登りば金箱』。「私のアイデアが私のいないところでもたくさんの人々の気持ちを集められたら嬉しいです。」との感想も。

また、レモネードスタンドも初登場し、小児がんのこどもたちの支援につながりました。

レポート：H2Oサンタ事務局 梅田 潔



20回目となる
次回のNPOフェスティバルは
2月19日(水)～24日(月)開催です。
次回は世界にひとつだけの
ブライスチャリティーオークションも同時開催し
令和6年能登半島地震災害支援を
継続します。



認定NPO法人 日本レスキュー協会

(災害救助犬やセラピードッグの育成・訓練と派遣)



南園彩子さん

災害救助犬とは、災害時に行方不明の人を捜索するために特別な訓練を受けた犬のことで、被災地への派遣や育成訓練費用は全て寄付でまかなわれており、今回のイベントを通してスポンサーになってくださった方もいらっしゃいました。また、会場ではPR犬の優音(うた)との触れ合いを実施し、心のケアが必要な方を癒やすセラピードッグのことも知っていただくことができました。

NPO法人 おおさかこども多文化センター

(外国にルーツを持つこどもたちへの教育支援)



副理事長
村上自子さん

外国にルーツをもつこどもたちが日本で自分らしく、いきいきと暮せるように、包括的教育支援を行っています。イベントでは世界の文字で名刺を作るワークショップを開催。文字を教えるのは、海外から来日して大阪で学ぶ高校生や留学生です。自分の母語を教えることは自己肯定感を高め、参加者にとっては新しい言語を学ぶことの大変さを知ってもらう良い機会になりました。

認定NPO法人 日本クリニクラウン協会

(長期入院生活を送るこどもたちの支援)



事務局長 熊谷恵利子さん(写真左)
紙森栄時さん(写真中)
藤本真実子さん(写真右)

入院中のこどもたちのもとへ訪れ、クリニクラウンの遊びや会話を通して楽しい時間を過ごしています。今回、赤い鼻のハリネズミ「ホッジー」を作るワークショップを行い、クリニクラウンや入院しているこどもたちについて知ってもらうことにつながったと思います。私たちに会うためにイベントへ来てくれた子もいて、これからもこどもたちの背中をそっと押してあげる存在であり続けたいです。

レッド・ノーズ・デイ 2024

開催：2024年8月7日(水)〈ハナの日〉
会場：阪急うめだ本店 9階
阪急うめだホール／祝祭広場

毎年、8月7日(ハナの日)に、赤い鼻がトレードマークのクリニクラウン(臨床道化師:認定NPO法人日本クリニクラウン協会)と一緒に、入院中のこどもたちに笑顔届けるイベントを開催。オンラインでは、全国各地の病院や施設から約100人が参加し、会場では約200人の来場者が赤いハナを付けて笑顔を贈りあい、笑顔のメッセージを受け取った病室のお友達も元気に笑顔で手を振ってくれました。会場全体が笑顔でいっぱいになりました。



レポート：H2Oサンタ事務局 森田英里



配信画像はこちらから
ご覧いただけます。

土曜日の午後はH2Oサンタ チャリティートークイベント

開催:2024年4月~9月

会場:阪急うめだ本店 9階 祝祭広場



訪問型病児保育とは?
(認定NPO法人ノーベル)

チャリティートークイベントとは?

毎週土曜日の午後3時に社会貢献団体のスタッフをお招きし、インタビュー形式で活動現場のリアルをお伝えするイベントです。



多言語で絵本の読み聞かせ会をすることも
(NPO法人おおさか子ども多文化センター)

土曜日の午後の祝祭広場の階段には、お買い物途中のお客様が大勢座られています。その階段下のステージで、H2Oサンタのスタッフが、どのような社会課題があるのか? なぜこの活動を始めたのか? どんなことに困っているのか? 私たちにできることは何か? とインタビューを進めます。

ご来場いただいた方の中には、「前は予定が合わず聞きに来ることができ

なかったけど、今回は絶対に聞きたくてこのために阪急に来ました。」という方や、イベント終了後に「今までこうした活動をされているのを知らなくて、話を聞いて心に沁みました。詳しく聞かせてください。」とNPOの方と個別に話し込まれる方もおられ、話を聞いてパンフレットをお持ち帰りになられたり、地域の方々とのつながりを感じています。

レポート:H2Oサンタ事務局 原田 郁子



2024年

- 4/ 6 NPO法人つなげる
(多胎児家庭(双子・三つ子など)のつながりを支援)
- 4/13 認定NPO法人ノーベル
(訪問型病児保育で親子を支援)
- 4/20 認定NPO法人ノーサイド(あかりバンク)
(病棟などに手作りの癒やしのあかりを贈る)
- 4/27 一般社団法人ニュールック(new-look)
(高校を中退した若者の支援)
- 5/11 社会福祉法人兵庫盲導犬協会
(盲導犬の育成、無償貸与)
- 5/18 認定NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン
(貧困や差別から子どもを自由にする活動)
- 5/25 一般社団法人チャミングケア
(病児・障害児のためのショッピングモールを運営)
- 6/ 1 NPO法人西成チャイルド・ケア・センター
(子ども食堂を通じた地域のつながり作り)
- 6/ 8 NPO法人おおさか子ども多文化センター
(外国にルーツを持つ子どもたちへの教育支援)
- 6/15 認定NPO法人ジャパンハート
(アジアの医療の届かないところに医療を届ける活動)
- 6/22 NPO法人日本サービスドッグ協会
(引退補助犬の支援)
- 6/29 認定NPO法人プール・ボランティア
(障害児へ水泳の体験を提供)
- 7/ 6 認定NPO法人ゴールドリボン・ネットワーク
(小児がんの子どもたちを支援)
- 7/13 認定NPO法人日本子ども支援協会
(里親制度の啓発・里親支援)
- 7/20 公益財団法人チャイルド・ケモ・サポート基金
(小児がんや難病の子ども滞施設チャイルド・ケモ・ハウスの運営)
- 7/27 認定NPO法人ふあそらぼ (FaSoLabo) 京都
(食物アレルギーのある子どもと家族の支援)
- 8/10 公益社団法人子どものホスピスプロジェクト
(難病の子どもとその家族を支援)
- 8/24 公益社団法人家庭養護促進協会 大阪事務所
(里親・養親家庭をささぐ活動)
- 8/31 社会福祉法人日本ライトハウス
(盲導犬の育成、無償貸与)
- 9/ 7 公益社団法人アジア協会アジア友の会
(きれいな水がないアジア地域へ井戸を提供)
- 9/14 NPO法人西淀川子どもセンター
(子どもの食事・教育支援)
- 9/21 NPO法人あっとすくーる
(ひとり親家庭の子どもたちの学習支援)
- 9/28 NPO法人あっとオーティズム
(自閉症の理解促進のための啓発活動)



今後のスケジュールは、
H2Oサンタホームページや
Facebookをチェック!
みなさまのご来場、
お待ちしております。



H2Oサンタの
ホームページは
こちら

法人賛助会員の 従業員ボランティアが加速中

2014年からはじまったボランティア仲介は、延べ1,300名を超え、たくさんの“サンタ”が誕生しています。最近では、法人賛助会員から従業員のボランティア先を紹介してほしいとご依頼をいただくことも増え、新たな“サンタ”が誕生しています。

これまでおつなぎさせていただいた賛助会員は14社。115名の方がボランティアにご参加くださいました。

参加いただいた方からは「こんなことも支援があることを知らなかった。」「NPOの方がこどもに寄り添ってられる姿に感動した。」と言ったお声をい

ただき、NPOからは「これまで接点のなかった方々に、活動を知ってもらえてとても嬉しい。」「真摯に活動に参加してください、助かりました。」というお声をいただきました。賛助会員様で初めてボランティアに参加された方に、H2Oサンタのピンバッジをお渡ししたところ、大変お喜びいただき、自社でピンバッジを着用し、「サンタを広めますね。」とのお言葉も。これからもたくさんの“サンタ”が活躍できるよう、ボランティア仲介を拡大していきたいと思えます。

レポート：H2Oサンタ事務局 森田英里



サントリー株式会社様に 3つのボランティア先をご紹介します！



認定NPO法人
日本クリニックラウン協会
(ノベルティの検品)



NPO法人弱視の子どもたちに絵本を
(絵本作りのお手伝い)



認定NPO法人兵庫介助犬協会
(犬舎の掃除・散歩)

寄付額合計 7,757,813円

能登半島地震支援金募金、チャリティーガイドやイベント、web募金で集まった寄付金を、101団体へ寄付いたしました。みなさまのご協力ありがとうございました。

寄付先団体
からのお声

H2Oサンタのブログにて、毎月の寄付報告を掲載しています。
詳しくは、H2Oサンタホームページからご覧ください。



認定NPO法人アクセス
—共生社会をめざす
地球市民の会
(フィリピンのこどもの教育支援)
理事長・事務局長 野田沙良さん

おかげさまで2024年5月末の学校年度末には、アクセスの就学支援によって56名の小学生が卒業することができ、267名の小中高生が新学年に無事に進級できました。これも、皆さまからのご寄付のおかげです。こどもたちに学びと食の機会を届け続けていただき、本当にありがとうございました。



NPO法人
弱視の子どもたちに絵本を
(視覚障害のこどもたちの支援)
理事 田中加津代さん

全盲・弱視のこどもは極く少数派で地域にぼつんと一人です。私たちは、読書や学習の支援と共に、こども同士がつながりあう事に力を注いでいます。さわる絵本などの製作・学習支援・鉄道の旅などの私たちの活動は、ご寄付なしには、実現できませんでした。厚く御礼申し上げます。



一般財団法人H2Oサンタは、H2Oリテイリンググループの社会貢献団体です。
 こども支援をテーマに、地域社会にチャリティーの文化を創造することを目的とした
 4つの活動を行っています。

1 社会貢献団体と連携した啓発・募金活動

展示会やイベントで様々な団体を紹介し、寄付を募る活動を行っています。

2 寄付のためのイベント

寄付金を集めるための販売会・展覧会・ダンスイベントなどを開催しています。

3 ボランティアの仲介

ボランティア活動に参加していただける方々と社会貢献団体をつないでいます。

4 調査・発表

こどもたちに関連する諸問題を調査し、本誌などで紹介しています。

H2Oリテイリンググループ

百貨店、スーパーマーケットなど小売業を核とし、
 地域のみなさまの生活に貢献する生活総合産業グループです。



賛助会員ご加入のお願い

H2Oサンタの活動を継続するためには、
 みなさまからのご支援が必要です。
 活動の趣旨にご賛同いただき、賛助会員へ
 のご加入よろしくお願ひいたします。

右記の
 二次元コードから
 お申込みください。



【会員種別】

法人会員 ——— 1口 50,000円

個人会員 ——— 1口 5,000円

【年会費】

会員様一覧



一般財団法人H2Oサンタ事務局

TEL:06-6313-9304 (10:00~18:00) ※火・日曜以外

Mail:h2osanta@h2o-retailing.co.jp

